

春秋彩

Syunjusai

熊本県立大学広報誌
2017 Autumn

Vol.47

Contents

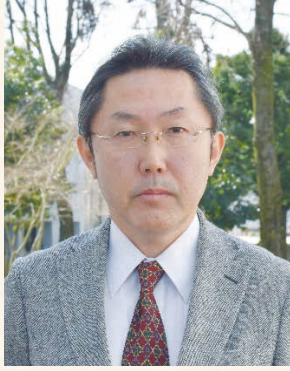
特集 県立大学創立70周年	3
活躍する卒業生	8
研究活動紹介	9
国際交流	10
地域連携	11
大学の動き	12
後援会便り	13
活き活き元気種	14
未来基金	15
おすすめの一冊	15
熊本県立大学アーカイブズ	16



春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

ごあいさつ



学長 半藤 英明

季節を愛して

学生の本分は、自分の能力を試し、育み、磨き、そして見極め、生涯にわたる生きる力と覚悟を身につけるべく、学問にいそしみ、教育的な諸活動に邁進することです。大学を最大限に活用することで、自己開発、自己改善がはかれます。頑張る方法と程度は、人それぞれでよいと思いますが、自分を育て上げようとする前向きな気持ちが学生生活を豊かにします。斜に構えて頑張ることを否定してはなりません。

本学の創立70周年の半年が過ぎました。華やかな国際シンポジウム、講演会、記念イベントなど、色々ありましたが、過ぎ去ってみれば、時の移ろいは存外早く、自分のなすべき事は果たしたか、置き忘れたことはないかと不安になります。学生諸君は、また、みなさまは、如何でしょうか。未来は果てしない時間を提供してくれますが、後悔しない人生を歩もうとすれば、毎日の充実感を大切にしなければなりません。

今年も暑い夏でした。気候ばかりの話ではありません。日本の社会に、世界のあちこちに、選挙、外交、スポーツなど、熱い戦いがありました。ただ、あらぬ争いは困りものです。混沌としたグローバルな人間社会が先鋭的な対立や矛盾に適応できず、声を挙げて右往左往しています。人智は、平和と安寧を脅かす人類の課題に正面から向き合うべきである、と私は思っています。概して言えば、人間は自分本位であり、しかも忘却の動物です。他者への関心はあっても心配りは意外と薄く、求める満足や快樂は刹那的で意外と残らない。寒い冬には夏を恋い、夏が移ろえば暑さを忘れず、悪夢を消し去る装置である忘却は、人間の利点でもあります、恐らく欠点でしょう。

忘れてたり忘れまいとしたり、思い出せたり思い出せなかったり、季節の移ろいと共に一年は過ぎていきますが、私たちの人生は季節の彩りで豊かになる。巡り来る季節を愛せる私たちがでありたいと思います。

特集 県立

平成28年4月	平成26年4月	平成25年4月	平成23年10月	平成22年4月	平成21年4月	平成20年4月	平成18年4月	平成17年4月
● 地域活力創生センター設置	● 全学教育推進センター設置	● 地域連携センターを地域連携・研究推進センターに改組	● CPD(継続的専門職能開発)センター開設	● 大学院博士課程増設 ▼文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程)	● 学生支援組織改組 ▼キャリアセンター設置、保健センター設置	● 大学院博士課程増設 ▼文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) ● 環境共生学部学科改組 ▼環境共生学科学科/環境資源学科学科、居住環境学科学科、食健康科学科学科	● 附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門)、地域連携センター設置、包括協定制度整備	● 大学院博士課程増設 ▼環境共生学科学科/環境共生学専攻(博士課程)



大学創立70周年

◆本学70年のあゆみ(年表)

昭和22年4月	●熊本県立女子専門学校創立(熊本城内)	
昭和24年4月	●熊本女子大学開学 ▼学芸学部／文学科、生活学科	
昭和25年6月	●熊本市大江町渡鹿に校舎移転(現：県立劇場敷地)	
昭和28年4月	●学部学科名称変更 ▼文家政学部／文学科(国文学専攻、英文学専攻)、家政学科	
昭和35年4月	●学科分割改組 ▼文学科↓英文学科、国文学科	
昭和38年4月	●学科分割改組 ▼家政学科↓家政学科、食物学科	
昭和55年4月	●現在地に新キャンパス建設 ●学部を文学部、生活科学部の2学部制とし、合わせて学科改組 ▼文学部／国文学科、英文学科 ▼生活科学部／食物栄養学科、生活環境学科、生活経営学科	
平成3年4月	●外国語教育センター設置	
平成5年4月	●大学院設置 ▼文学研究科／日本語日本文学専攻(修士課程)、英語英米文学専攻(修士課程)	
平成6年4月	●大学名称を「熊本県立大学」に変更、全学的に男女共学に移行 ●学部増設 ▼総合管理学部／総合管理学科 ●文学部学科名称変更 ▼国文学科↓日本語日本文学科、英文学科↓英語英米文学科	
平成9年	●大学歌「宙(そらへ)」制定(開学50周年記念事業)	
平成10年4月	●大学院研究科増設 ▼アドミニストレーション研究科／アドミニストレーション専攻(修士課程)	
平成11年4月	●生活科学部を環境共生科学部に改組 ▼環境共生学部／環境共生学科／生態・環境資源学専攻、居住環境学専攻、食・健康環境学専攻	
平成12年4月	●大学院博士課程設置 ▼アドミニストレーション研究科／アドミニストレーション専攻(博士課程)	
平成15年4月	●大学院研究科増設 ▼環境共生学研究科／環境共生学専攻(修士課程)	

70周年 記念事業の紹介

●アーカイブ資料の収集及び公開

学術情報メディアセンターがこれまで収集してきたアーカイブ資料や新たに収集する資料のデータ化を進め、本学ホームページでアーカイブ資料を紹介します。

●大学イメージ動画の作成

創立70周年を期に本学のイメージを伝える動画を7月に制作しました。

●記念シンポジウムその他記念イベント実績(上半期：4月～9月)

日時(場所)	イベント名	実施内容
6月10日(土) 13:00～16:00 (熊本県立大学)	公開講演会 「学部生・社会人のための 大学院のススメ」	変化の激しい社会のなかで、学び続けることは、豊かな生活の一部となります。その中で大学院の学びとは何でしょうか。魅力ある大学院の世界をご紹介します。 基調講演：演題「これからのキャリア形成と大学院での学び直し」 講師：国際大学グローバルコミュニケーションセンター准教授 高木聡一郎 氏 パネルディスカッション
7月29日(土) 13:00～16:00 (熊本ホテルキャッスル)	国際関係シンポジウム2017 「トランプ政権とアジア太平洋」	「知」の拠点としての役割を担うため、国際政治学者である五百旗頭理事長の提案により、日本を代表する国際関係の専門家を招いて、日本を取り巻く国際情勢について熊本にいなから最先端の理解が得られることを目的とし、国際関係シンポジウムを開催しました。 基調講演 田中 均氏(株)日本総合研究所国際戦略研究所理事長 パネルディスカッション 五百旗頭真理事長 白石隆氏(JETROアジア経済研究所長) 高原明生氏(東京大学教授)



●記念シンポジウムその他記念イベント予定(下半期：10月～3月)

日時(場所)	イベント名	実施内容
10月7日(土) 15:30～19:00 (ホテル熊本テルサ)	創立70周年記念式典・祝賀会の開催	目的:70年のあゆみ～本学を展望する契機とする。 内容:小泉純一郎元内閣総理大臣の記念スピーチ、熊本県立大学学生によるプレゼンテーションなど。
10月23日(月) 10:20～11:50 (熊本県立大学)	特別講義 「21世紀のリベラル・アーツの可能性」	演題:21世紀のリベラル・アーツの可能性 講師:同志社大学法学部教授 村田晃嗣 氏(国際政治学者)
11月25日(土) (熊本県立大学)	第10回祥明大 熊本県立大学学術フォーラム	本学の姉妹校である韓国・祥明大との10回目となる学術フォーラム。
来年3月予定 (熊本県立大学)	総合管理学部プロジェクトチーム・出版記念講演会「地域創生への挑戦」	パネルディスカッションや総合管理学部学生によるポスター発表等。
来年3月予定 (熊本県立大学)	第5回 食育・健康フェスティバル	食育・健康に関する展示、物品販売、講演会等。



70周年記念事業の概要

熊本県立大学創立70周年記念国際関係シンポジウム2017

「トランプ政権とアジア太平洋」

7月29日(土)、熊本ホテルキャッスルにおいて五百旗頭理事長のコーディネートにより、田中均(株)日本総研国際戦略研究所理事長、白石隆 JETRO アジア経済研究所長、高原明生 東京大学教授という外交・国際関係の第一人者を熊本にお招きして、標記シンポジウムを開催しました。

当日は県内外から約700名もの御来場があり、動乱の時代の転換点を迎える世界情勢と進むべき日本の針路について最新かつ重厚な御発言があり、みな熱心に耳を傾けておられました。

基調講演では、田中均(株)日本総研国際戦略研究所理事長から変化する国際情勢への対応が迫られている日本について「多様な意見を基にした創造的な外交が必要だ」との御意見をいただきました。

続いてパネルディスカッションでは、白石隆 JETRO アジア経済研究所長が、「何をするか分からないトランプ政権は頼りにならない。東南アジア各国が日本に望むのは、『せめて日本は安定を保ち、日中関係をきちんとマネジメントしてくれ』ということだ」と語り、高原明生 東京大学教授は「最近の中国には冷静に議論できる人も増えている。国際ルールを共有するため、公の議論を重ねる『公論外交』を進めるべ

きだ」と訴えました。

最後に、コーディネーターである五百旗頭熊本県立大学理事長から「日本は、20世紀の教訓を生かし、米中という二つの大国との関係について、日米関係については今後も継続した同盟国として、また日中関係については相互利益をもたらす協商関係を構築していくことが不可欠」とのまとめがあり、パネルディスカッションを閉会しました。



熊本県立大学創立70周年記念講演会

「学部生・社会人のための大学院のススメ」

6月10日(土)、本学 CPD センターにおいて熊本県立大学創立70周年記念講演会「学部生・社会人のための大学院のススメ」が開催され、学内外から約60人の参加がありました。

基調講演では国際大学グローバルコミュニケーションセンター准教授の高木聡一郎先生が「これからのキャリア形成と大学院での学び直し」と題して講演。自らIT企業に勤めながら大学院で博士号取得をした経験を振り返り、効果的な研究や日々の生活などについて話がありました。

第2部は、パネルディスカッションを開催。コーディネーターは総合管理学部澤田道夫准教授が務め、本学の現役大学院生3人の発表がありました。まず、高校で英語を教えながら文学研究科に通う中野友加里さんは「仕事しながらの研究活動だが毎日が充実して楽しく、仕事にもいい影響がある」と発表。学部生から進学し晩白柚の研究を行っている環境共生学研究科の西岡美里さんは「本当にやりたいことをやれている。自分の研究を社会の中で役に立てられるようがんばりたい」と抱負を語りました。一度企業に就職し、大学院に入り直したアドミニストレーション研究科の山口貴義さんは「視

点や考え方が変わった。またすばらしい恩師や仲間との出会いがある。こういう環境の中で培った力を社会の中で生かしていきたい」と話しました。講評では高木准教授が「とにかく研究は大変できついけど、楽しいもの。しっかりと研究を続けて欲しい」と若き研究者にエールを送りました。





8月20日(日)に行われた本学同窓会紫苑会の運営委員会にお邪魔して、
本学各世代の卒業生から当時の様子をお伺いしました。

大江の校舎の中庭には綺麗な藤棚

まずは本学キャンパスの当時の状況についてお伺いします。

15回生(食物)陣内宏美さん：私は大江に校舎がある昭和30年代に在学していた者ですが、とにかく物が無い時代で、大学の図書館というさぞかし立派なものかと思いきや、蔵書も存外少なく、先輩の話によると、椅子も前の校舎(旧陸軍第六師団司令部跡飯校舎)から持ってきたとのこと、そんな時代でした。



陣内宏美さん

18回生(食物)関幸枝さん：木造の校舎は、歩くと「コツ、コツ」と音が鳴ります。それが印象的でした。また私はマンドリンクラブに所属していましたが、中庭には大変綺麗な藤棚があって、そこで練習した記憶があります。



関幸枝さん



岩越優子さん

29回生(国文)岩越優子さん：大江の学食はカレーとうどんで、女子大だからでしょうか、量も少なかったですね。カレーはスープカレーのようでした。



梅守穂美さん

34回生(食物)梅守穂美さん：私が入学した昭和50年代は、できたてほやほやの白亜の建物群で、とても綺麗な校舎だな、と思いました。

39回生(生経)加藤淳子さん：私がいた昭和60年代は、現在学食になっている所が図書館で、当時の学食はというと、現キャリアセンターの隣でやや窮屈なスペースでした。当時もお弁当持参という学生が多く、席取りに難航した記憶がありますね。

それから当時はアリーナや大ホールなどはなく、隣接地には保育大学校がありましたし、グラウンドも今よりも広がったです。



加藤淳子さん



廣田瑞穂さん

39回生(生経)廣田瑞穂さん：現在の国体道路は、当時大学以東は未整備で、その先一帯は牛馬いなくのどかな田園でした。

実践的な授業は今も役立つ

続いて講義や先生に関する印象的な思い出などは如何でしょう。

14回生(家政)戸次元子さん：当時竹村先生という面白い先生がいて、曰く「私は字が汚い学生の答えは見ません」と言っていたのをよく覚えています。



戸次元子さん



廣松久美さん

36回生(食物)廣松久美さん：私たちの女子大の頃は、大ホールなどがなくこぢんまりとした教室の多い中で、「階段教室」(現小ホール)といわれた講義室がいわゆる大学っぽい教室だなど思っていました。

体育祭では仮装行列が盛ん

本学の体育祭や文化祭などのイベントについてお伺いします。

17回生(食物)坂本和子さん：体育祭では仮装行列が人気で、私のいた昭和40年代は、フライパンをギターに見立て当時人気だったタイガースを装ったり、鉄腕アトムの格好をして歩きました。



坂本和子さん

36回生(食物)倉原香代子さん：私のいた頃には健軍キャンパスにて既に白亜祭と呼んでいて、当時ゲストに久保田利伸さんをお招きして大変盛り上がったのを覚えています。またカラオケがあり、学科の友達と白衣を着て踊り見事優勝しました。



倉原香代子さん

それから、当時大学にはプールがなく、日赤のプールを借りていたのですが、日赤には更衣室がないため、仕方なく大学で着替えて、水着のまま道路を横断して日赤を往復してました。

46回生(総管)森澤志穂さん：私は総管1期生で、学食が移動する時期でした。旧学食の厨房は2、3年使える状態でしたので白亜祭の時はそこでどんを作った記憶があります。



森澤志穂さん

54回生(総管)田尻伸博さん：体育委員会で仲良くなった先輩方と始めた出店のネーミングに、僕が冗談で言った「こころのカレー」や「こころのうどん」が採用されました。それが白亜祭での思い出ですかね。



田尻伸博さん

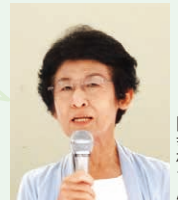


チアガールとして後楽園へ応援に

女子大ならではのエピソードなどありましたらお願いします。

18回生(食物)関幸枝さん：当時は、ダンスパーティー(通称「ダンパ」)や、熊大の学生など男子と荒尾の三井グリーンランドに行く合同ハイキング(通称「合ハイ」)というイベントがありました。そこでゴールインしたという方はいなかったかな？ まあ清らかな交流をしていました。

それから女子大には「結婚相談室」というものがあって、そこで希望者には縁談の話を進めるのですが、卒業式に外でフィアンセがずらりとならんでおり、そのままゴールインという方も少なくなかったです。昭和30年代～40年代は大体そんな時代でした。



関幸枝さん

40回生(食物)早田恵美さん：私たちは飯尾先生のゼミ生で、その研究室の床にはゴマがよく落ちていました。何故だろうと思っていたら、実は先生は大の「あんぱん」好きでして、毎日のように食べていたからだそうです。厳しさの中にも規則正しい生活のお陰で就職してからも社会生活が全く苦になりませんでした。



早田恵美さん

60回生(総管)内田圭亮さん：自分が3年生の時突然ゼミの先生が異動され、正直「勘弁してくれ」と思いましたが、澤田先生が担当として引き受けられ、何とか卒論を書き終え無事卒業できました。



内田圭亮さん

61回生(総管)佐藤紗弥佳さん：総合管理学部では、マーケティングやブランディングなど実践的な授業が多く、今でも職場で活かされています。学生時代に視野を広げていただけたので大変有り難かったです。



佐藤紗弥佳さん

62回生(総管)櫻井一隆さん：自分は宮園先生のゼミに所属しており、座学のみならず社会との関わりについて色々なことを勉強させていただきました。縦の繋がりも強く、今でもOB会が盛んに行われています。



櫻井一隆さん

19回生(英文)一門邦子さん：私が所属していた書道部の宿舎が阿蘇神社で、そのご縁でホテルでの神前結婚式(巫女さん役)をするアルバイトがありました。なんでも新婦さんより綺麗ではダメという採用条件があったのですが(笑)。いずれにせよ女子大ならではのかなと。



一門邦子さん

24回生(食物)横田桂子さん：都市対抗野球に関して、熊本では電電公社(現NTT)が強くて、全国大会の常連チームでした。そのチアガールの募集があり、急遽バレエのレッスンののち後楽園(現東京ドーム)に2週間ほど応援に行ってきました。併せて東京も満喫させてもらいました。

現在紫苑会は、70代から20代の運営委員で活動しております。歴史と伝統ある本学で学べたことに誇りを持ち、これからも同窓会としてどのようなべきかを探求し、大学・学生からの情報を共有しながら、さらなる歩みを進めていきたいと思っております。



会長 横田桂子さん

皆様、本日はたくさんのお話を頂き、誠に有り難うございました。



モデル・タレント

みやこ
宮崎 京さん

平成12年3月
文学部英語英米文学科卒業

Be positive

平成15年(2003年)にミス・ユニバース日本代表に選ばれてから、モデル業と並行して、主に女性向けにウォーキングやポージングなど美しい立ち居振る舞いを指導しています。「美」の捉え方は人それぞれ、自身の心地の良さを大切にしながら、その人の目指す美しさを見つける手助けをしています。私にとって美しさとは、コミュニケーションのもとに成り立つもの。日々多くの人たちと触れ合うことであらたな情報を取り入れ、私自身が更新して発信する…そんなふうに学生時代から人との繋がりを大切にしています。

英語英米文学科に入学したのは、思春期から海の向こうへの憧れが強く、国内外を行き来する職業に就きたかったから。とはいえ両親の勧めもあり、教員免許を取得し卒業後は教師になる

のも良いかなあと、将来についてはぼんやりしていました。在学中に先輩からの「ファッションショーに出てみない？」というひとことがなければ、今の私はいなかったでしょう。そのことがきっかけで福岡のモデル事務所にスカウトされました。

それからは、週末や授業のない時に(学業優先で!という両親との約束のもと)モデルの仕事やレッスンを受けていました。まさか今に至るまで、その時にはじめてたことが私の生涯のライフワークになるとは思わずに。実は幼い頃からお洒落が大好きで、ファッション業界に憧れていたのですが、引っ込み思案な性格が邪魔をして一步を踏み出せずにいました。モデルの仕事を始めから、どこか自信がなくて学業との両立で悩む私に「自分を信じてまっすぐに突き進むことが、自信を持

つということだ」と、在学中から親しくしている友人が教えてくれました。

大学生が制作から進行まで行うラジオ番組に参加したり、国体に学生ボランティアとして関わったり、サークルの活動(女子バスケット部でした)で遠征したり。興味を持ったことにはすべて、「学生の今しかできない!」とチャレンジしました。立ち止まっても、足踏みしても、石橋を叩き割って渡れなくなっても、進むべき道は必ずあるのだと思っています。

あの頃の自分と同じ年頃の皆さんのこれからが、私にとってはうらやましく、また期待に満ちあふれています。

視線の先に、まだ見えなくても望んだ未来があると信じて、どうか前向きな日々を!



地域に生き、世界に伸びる研究へ ——今後の研究活動 (ファッション産業のグローバルな再編と都市社会学)



総合管理学部 准教授

三田 知実

== 略 歴 ==

1978年8月13日生まれ 39歳。

■ 主な職歴

2016年4月 - 現在
熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学科 准教授

2014年4月 - 2016年3月
立教大学 社会学部現代文化学科 助教

2013年4月 - 2014年3月
立教大学 社会学部社会学科 助教

■ 学位

修士(都市科学)東京都立大学 2005年3月
博士(社会学)立教大学 2012年3月

■ 主な研究テーマ

- (1) 衣料産業におけるグローバルな都市間分業
—持続的都市成長の原動力／学術研究助成
基金助成金／若手研究 (B)[交付] 研究
代表者科学研究費補助金／基盤研究 (B)[交
付] 研究代表者 間々田孝夫 立教大学社
会学部名誉教授



上乃裏通り…東京都渋谷区神宮前の細街路に似ている、熊本上乃裏通りのスタディーツアー。なぜ裏原宿に似ているのか。何が熊本特有なのか。これが研究の問い。2017年3月筆者撮影。

■ 主たる研究業績

- (1) 『衣料デザインのグローバルな研究開発拠点としての都市細街路—東京都渋谷区神宮前における住宅街からの変容過程』(日本都市社会学会年報)31号, 日本都市社会学会 pp.71-86、2013年)
- (2) 『第11章文化生産とまちづくり—渋谷区神宮前「裏原宿」』松本康編著『都市社会学入門』(有斐閣アルマ・pp.206-226、2014年)

■ 受賞歴

日本都市社会学会「日本都市社会学会若手奨励賞」受賞(2014年9月11日 日本都市社会学会第31回大会総会にて授与)

研究の動機と学術のむずかしさ

私は1998年に東京の立教大学社会学部社会学科に入学し2002年に卒業しました。もともと都会の文化が好きで、青山、麻布や原宿のカフェラウンジやセレクトショップに頻繁に向かいアルバイトを行う学生時代でした。衣料品デザイナーやセレクトショップのオーナーと出会い、お話を伺うことができました。それを契機として、東京都渋谷区神宮前の住宅街であった都市細街路が、ファッションデザインのグローバルな拠点へと変容してきた過程を研究したいという動機が生まれ、大学院に進学しました。10年間の厳しい調査研究を通じて、博士学位論文を完成させることができました。

渋谷区神宮前の都市細街路では、土地資産バブル期に不動産価値が著しく上昇しました。固定資産税や相続税を支払いながら生活を営む住民は、もとの住居を低層複合ビルに建て替えました。しかし、バブ

ル経済崩壊により、神宮前の不動産価値も下落しました。低層複合ビルの家賃も下げざるを得なくなりました。安価な家賃の物件を探していた衣料デザイン事務所やセレクトショップを入居させました。それにより神宮前の都市細街路が、住宅街から、ファッション街区へと変容しました。これが筆者によるフィールドワークの結果です。しかし、フィールドワークの成果だけでは、学術論文は完成しません。研究の学術的意義を見定める必要があります。この課題は、調査と文献レビューとの絶え間ない往復により達成されます。筆者は、国内外の都市社会学や文化社会学を数百冊レビューし考察を深めました。それにより論文の学術的意義を明確化できました。

地域に生き、世界に伸びる研究へ 今後の研究活動

本学のテーマは、「地域に生き、世界に伸びる」です。筆者はこれまでの経験を活

かしながら、熊本の中心市街地の空間再編過程を、都市社会学的に捉え、地域に生きる研究として意義を深めてゆきます。さらに筆者は現在、衣料産業のグローバルな再編がもたらした、デザイン、製造、小売部門のグローバルな都市間分業体制の調査研究も行っています。高級ブランド大資本の経営手法の変化や、ファストファッション大資本の興隆が、グローバルな都市間経済格差を生み出しています。この調査結果をもとに、世界に伸びる研究を結実させたいと思います。



ボンビドーセンター(パリ)…これは建築中ではない。完成した美術館。創造性・多様性に寛容なヨーロッパならではのデザイン。2014年パリ調査時に筆者撮影。

国際交流

International Exchange



韓国・祥明大學校から短期研修団が来学

本学と学生交流協定を締結している祥明(サンミョン)大學校(韓国)から7名の学生が来学しました。6月23日～30日(8日間)という限られた日程の中、近隣の月出小学校児童との交流をはじめ、本学サークル(茶道部・華道部・着物礼法部・国際倶楽部)による日本文化の紹介・体験や日本語授業の一環として街頭インタビューに挑戦し、最終日に成果発表を行うといった中身の濃い研修を行いました。



「トビタテ! 留学 JAPAN 地域人材コース」第7期派遣留学生に本学から2名が採用!!

「平成29年度第7期官民協働留学支援制度～トビタテ! 留学 JAPAN 地域人材コース～」に、大関彩香さん(文学部4年)と鈴木俊亮さん(総合管理学部3年)が採用されました。

大関さんは、来年2月から17ヶ月間、初めにオーストラリアでマーケティングを学びながら市場調査を

行い、その後香港でのインターンシップで、熊本県農産物の販路開拓を行う予定です。また、鈴木さんは、10月から9ヶ月間、インドで情報技術について学び、その後アメリカの旅行代理店でインターンシップを行いながら、熊本観光情報サービス開発プロジェクトを進める予定です。

地域連携

◇ 地(知)の拠点整備事業(COC事業)

もやいすと(地域)ジュニアがフィールドワークを実施

「もやいすと(地域)ジュニア育成」(担当：津曲隆教授)を受講する1年生約260名は、9月、県内三カ所(阿蘇市、和水町、玉名市)でのフィールドワークを実施しました。阿蘇では草原維持へ向けた輪地切り体験活動、和水町では中山間地域維持へ向けた里山保全活動(台風の影響により現地レクチャーに変更)、玉名市では日本遺産の認定を受け指定文化財の踏査活動を実施しています。フィールドワークの成果については、9月20日に全52班から成果発表会として報告されました。

発表会には、玉名市のマスコットキャラクターであるタマにゃんが駆けつけてくれました。



県南地域産品・加工品輸出を中心としたグローバル志向人材の育成ならびに教材化に関する研究

この取組は、八代市を基点にし海外展開を視野に入れた研究で、昨年(2023)の8月22日から10月12日にかけてアジアへの輸出展開に関するセミナーを開催しました。県南地域の農林水産業・加工業に従事されている関係者ならびに行政や本学関係者から、延べ75名の参加者がありました。学外の講師から海外における日本製品の現状と海外展開の実例や「海外輸出のためには、どのような情報発信が必要か」という切り口で講演を頂き、参加事業者の中からは、実際に輸出への取組が始まっています。今後、本取組に関わる学生の教育的効果や教材化及び情報の発信手段・内容を検討しながら県内の農林水産・加工分野における創造的復興に向けた支援を目指していきます。



◇ 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)

うまかモン開発プロジェクト

熊本地方 COC+ 六次産業化育成連絡会(事務局は本学で COC+ 事業を所管する地域活力創生センター)主催による「うまかモン開発プロジェクト」が6月から9月まで6回にわたって株式会社釜屋の全面的な協力により実施されました。学生にもづくりの楽しさと厳しさとともに、県内企業の魅力を理解してもらうことが目的です。県内5大学・高専から29名の学生が参加。「世界のカレー」をテーマに班毎に異なる5種類のカレー商品作りに挑み、企画から製造・評価・販売の全プロセスを経験しました。9月30日に本学食堂で、製造したカレーの試食や専門家のシェフが成果品を講評する「お披露目会」が行われました。



地域創生円卓会議 in 天草

8月25日、天草市の天草信用金庫本店ホールで「天草の宝物をブラッシュアップ!ー食・農・漁・加工・販売・観光・ものづくりの高収益化を目指してー」をテーマに「地域創生円卓会議 in 天草」(主催：熊本地方 COC+ 六次産業化育成連絡会(事務局：本学地域活力創生センター)、共催：天草信用金庫)を開催。企業・自治体関係者、大学生、天草地域の高校生など約150人が参加しました。雑節、ボタンボウフウ、ヒオウギ貝、天草観光について専門家の説明を聞いた後、大学生・高校生8班、社会人2班に分かれてワークショップを行いました。天草の優れた物をさらに強める方策について議論し、その成果を全体で報告しあった後、助言者からアドバイスを受けました。アンケートで約90%の参加者が「出席して良かった」と回答しています。



大 学 の 動 き

熊本県立大学イメージ動画を 作成しました

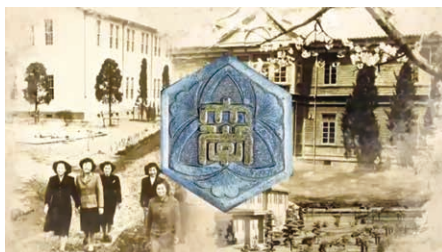
本学では、このたび創立70周年を期に、本学のイメージを伝える動画を制作しました。この動画は、以下5つの章ごとに完結するオムニバス形式となっております。

なお、動画をご覧になりたい場合は、本学ホームページ中の下記 URL を御参照ください。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/about/public/imagemovie.php>



① 全体(約5分)



② 70年の歩み編(約60秒)



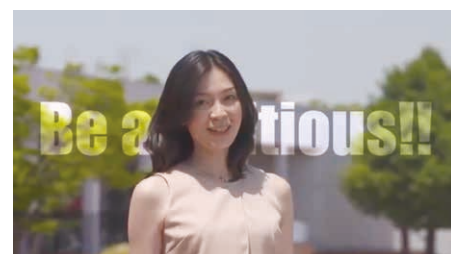
③ 地域性の重視編(約45秒)



④ 総合性の志向編(約45秒)



⑤ 熊本全体がキャンパス編(約60秒)



⑥ 国際性の推進編(約90秒)



本学の食育活動の取組が 「農林水産大臣賞」を受賞しました！

本学の食育活動が、農林水産省が実施する第1回食育活動表彰において最高賞の「農林水産大臣賞」を受賞しました。

「食育・健康ビジョン」を掲げ、食育推進プロジェクトが主体となり、県内自治体、JA、高校等、様々な組織と連携しながら「食育の日」「ベジチャージ@学食キャンペーン」「郷土料理教室@仮設住宅」などの取組を展開している活動が評価されました。6月30日(金)には第12回食育推進全国大会 in 岡山の表彰式に半藤学長が参加し、細田健一政務官から表彰状と記念の楯が授与されました。



マンフィールド財団奨学研究者らが 本学を訪問

コロンビア大ジェラルド・カーティス教授とマンフィールド財団「日米次世代パブリックインテリクチュアル・ネットワーク」プログラムに参加の若手研究者らスカラー11人が来日し、東京でのセッションに続き、6月16日(金)、熊本の視察に併せて本学を訪問しました。

本学では、理事長及び学長への表敬ののち、CPDセンターにおいて五百旗頭理事長によるアジア太平洋の安全保障関係のセミナーが行われました。緊迫するアジア情勢にみな熱心に耳を傾けるとともに、活発なディスカッションが交わされました。



本学と益城町が包括協定を締結しました

6月29日(木)、本学と益城町は、「住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」への復興を目指し、地域資源の活用や産業振興など様々な分野において、相互に協力することを目的とする包括協定を締結しました。協定調印式は、益城町役場仮設庁舎において、理事長、学長、西村町長、向井副町長出席のもと行われました。本学では、これまで多くの教員や学生が震災復興に向けた研究やボランティアなどの活動を行ってきており、今回の協定締結を契機に、より一層の復興に向けた支援や協力を行っていきます。



林野庁九州森林管理局と連携と協力に関する協定を締結しました

7月24日(月)、本学と九州森林管理局は、連携と協力に関する協定を締結いたしました。この協定は、我が国の森林資源の本格的活用を前に、林業の成長産業化を促すため、大学の研究および人材育成の促進を図ることを目途に締結されました。今後は、実習林の提供、研究協力、学生へのキャリア支援、研修等の相互協力などが計画されています。

後援会便り

後援会では、大学と連携し学生のキャリア・就職意識の啓発、職業選択、社会人としての人格形成等に有効な就職活動支援を行っています。

その1つとして、昨年度は平成29年3月20日、3年次の学部生を対象に、学内において県内企業を中心とした50社が参加する合同企業セミナー開催に対する支援を行い、延べ191名の学生が参加しました。(下写真参照)

また、平成28年度から3年次の学部生を対象に「就職・進学写真代の助成事業」を行っています。

後援会では、この他様々な事業を展開していますので、是非ご活用ください。



後援会とは (ホームページ: <https://www.puk-kouenkai.jp/>)

- 本学学生の保護者またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

後援会の事業 次の4つの事業を中心に学生の活動全般を支援しています。

《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策、就職活動実戦、ITパスポート試験対策、簿記検定試験対策、行政書士試験対策、宅地建物取引士試験対策、ファイナンシャルプランナー、秘書技能検定対策、二級建築士受験対策)の助成又は開催経費の助成、資格取得及び講座受講等助成
- 就職セミナー・各学部による就職支援事業・在学生就職アドバイザー配置支援、PROGテスト(社会人基礎力の測定)・TOEIC® IP学内試験への実施支援、学内合同企業セミナー設営・福岡地区合同企業説明会参加助成、就職・進学写真代助成、保護者用就職ガイドブック配付

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、体育委員会主催リーダーズトレーニング・サマーキャンプバス代助成、全国大会等出場助成、ボランティア保険料助成等
- 学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、リクエスト図書の購入、防犯ブザー貸出、食育支援
- 学生のリクエストに応じ図書を購入手図書館へ配置等

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援等

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターゼミナール大会等への参加助成
- 卒業式のガウン貸与、卒業記念品贈呈等

※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。また未加入の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業を御理解いただき、是非ご加入ください。途中年次であっても随時入会を受け付けております。

活き活き元気種

このコーナーでは、地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



ボランティア活動サークル

Maple Leaves

部長 宿利 貴宏(総合管理学部3年)

私たち Maple Leaves は、文化委員会所属のボランティア活動サークルです。普段は、清掃活動やイベントのスタッフ、事前準備など熊本市内を中心とした様々なボランティアに関する活動をおこなっています。部員数は現在100名を超えており、構成としては女性の割合が多いサークルとなっております。異なる学年の学生同士が、日々、ボランティア活動を通じて同じ汗を流しています。

基本的にボランティアの募集に対して、「行ける人が、出来る範囲で」という原則のもと行っており、決まった活動日はありません。ただ定期活動としては、毎年熊本城マラソンボランティアや大学コンソーシアムによる江津湖清掃ボランティアへの参加のほか、「一般社団法人 BRIDGE KUMAMOTO」様と協力して復興支援品の作成の一部に関わっております。

また、本年7月に発生した北部九州豪雨に際して、熊本の企業である一般社団法人フミダス様から、同月末に資金面など多岐にわたる御協力により、被害の大きかった大分県日田市大鶴地区へ向けて、大学生を対象とした被災地ボランティアバスを運行しました。

当日の作業内容は、豪雨による土砂崩れで家の裏手が埋まってしまったお宅の、土砂のかき出し作業でし

た。当時は、現地までの道のりも険しく、作業対象となるお宅までの道中も木々が倒れ、ガードレールも場所によっては道路ごと滑り落ちている、そんな過酷な光景がところどころ見られました。作業現場となったお宅も、もとは手入れされた裏山だったところが土砂と大きな石で埋まっており、私たちの作業で三組目だと仰っていました。そんな状況の中でも、被害に遭われたお宅の方は笑顔で私たちを迎えてくださり、「ありがとう」と何度も言って下さったことが強く印象に残っています。

私たちはこれからも、熊本を中心に困っている人や助けを必要とする人と一緒になって活動し、互いが笑顔になれる、そんな団体を心掛けていきます。



熊本県立大学未来基金への御協力に
心より御礼申し上げます。

未来基金寄附者御芳名 (H28年度実績)

個人8件、法人4件、古本募金37件 (敬称略)

500万円 西部電気工業(株)
200万円 紫苑会
50万円 (財)未来会
渡辺満利子
2万円 逆瀬川真寿美

■お名前のみ (株)世界思想社教学社、井上勇人、王麗艶、黒木 蒼之、仁木 徳子

■古本募金 藤本さおり(4件)、吉田淑子、山崎幸子、金田裕美(7件)、古本回収ボックス(2件)、奥村嘉宏、税所幹幸、総合管理学部有志一同(13件)

※お名前の掲載を希望されなかった方 個人2件、古本募金7件

基金創設(平成21年9月)以来の寄附金総額は、
107,953,676円となりました。

未来基金平成28年度活用実績

◆ 熊本県立大学奨学金の充実 6,730,000円

修学支援	西部電気工業奨学金	3,600,000円
	同窓会紫苑会奨学金	1,800,000円
海外留学支援	短期派遣留学生支援奨学金	630,000円
	小辻梅子奨学金	700,000円

◆ 「熊本で世界と向き合う」をコンセプトとした国際化事業 665,820円

※熊本県立大学国際関係シンポジウム2016「アジア太平洋の中の日本外交」開催経費の一部(講師、パネリスト招聘経費)

— 引き続き皆様からの御支援、御協力をお願い申し上げます。 —

名誉教授の称号授与 <平成29年7月25日授与>



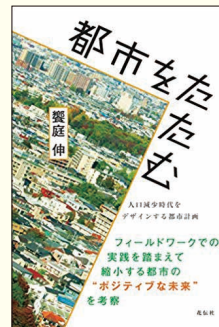
村里 好俊氏 元文学部教授、専門分野：イギリス・ルネサンス文学

松岡 泰氏 元総合管理学部教授、専門分野：アメリカの政治と歴史

おすすめの1冊

都市をたたむ

人口減少時代をデザインする都市計画



饗庭 伸・著

花伝社・2015年
本体価額 1836円
ISBN978-4763407627

スポンジ化していく都市に対する現実的で分かりやすい方策

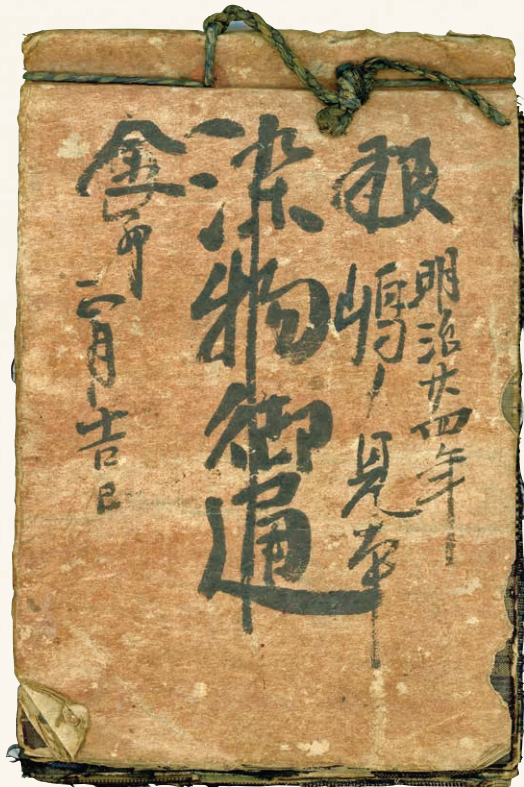
人口減少時代に向けて都市をいかに小さくしていくかが話題だ。しかし、都市計画の専門家の間でもコンパクトシティや縮退都市に対する具体的な方策がずれており、様々な議論と試行錯誤が行われている。そんな中、首都大学東京の饗庭伸(あいば しん)教授が10年以上の現場実践と研究に基づき、今起きている都市の現象とその対策について分かりやすくまとめたのが、『都市をたたむ』である。

日本の都市はモータリゼーションに伴い郊外に無秩序に広がってしまったが、人口減少時代に突入し、空き地や空き家が散発的・離散的に発生するスポンジ化が起きている。広域的な視点で中心市街地などに都市機能を集約していくとする立地適正化計画や都市マスタープランが各地で進められているものの、効果を生み出している都市は限られている。そこで饗庭伸教授が提唱したのが、徒歩圏内のエリアを中心に地域の資源と人を活かした自立型生活圏づくりである。『都市をたたむ』は今後の都市の在り方を考えていく中で、継続的に読み倒していくべき本であろう。



環境共生学部

准教授 鄭 一止
CHONG Iruzi



明治24年の「縞手本」

第44号で述べたように、本学には約7,000点と目される「富永家文書」が所蔵されている。富永家は、近世後期に造酒業や廻船業で財を築いたと見られる上益城郡白旗村(現美里町)の豪商で、貴族院議員・富永猿雄を輩出した名家として知られている。今回は「富永家文書」の中から、様々な生地が貼付された一冊を紹介したい。

本冊子は遊紙を除いて18枚の和紙から成り、半葉につき10-20枚程度の生地見本が貼り付けられている。表紙に「明治廿四年／正月吉日／嶋ノ見本」、裏表紙に「山中紺屋／南 富永様御内」と記されていることから、明治24(1891)年に富永家御用達の紺屋が作成したものを見てよい。紺屋という屋号は本来染物屋を指すものの、表題の「嶋」が「縞」を意味することから、本資料が「様々に染色した布地」で

はなく「色々な(染め糸で織った)縞模様の生地」の見本帳、すなわち「縞手本」であることは明らかである。

ところで、表紙に見せ消チで「根金／染物御通」とあることから、この見本帳の土台となっているのは、既に用済みとなった紺屋の通帳(かよいちょう)、すなわち商業帳簿であることが分かる。実際、生地が剥落している箇所には、そのことを示す記述と朱印(「井染／白旗／紺屋」)が認められる。

かくして、明治中期頃の生地やデザインの種類、製造技術、地方における商品流通の様相、あるいは反故(資源)の再利用など、文字通り、本冊子に色取り取りの歴史を垣間見ることができる。

解説：文学部 准教授 大島 明秀

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502(住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096(383)2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>